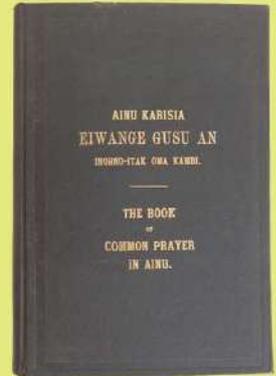


日本聖公会北海道教区宣教150年

連続講座 アイヌとキリスト教

英国聖公会宣教協会(CMS)が北海道で宣教活動を開始して150年。近代化の荒波の中で苦難の歴史を生きたアイヌの人々とキリスト教との関わりの歴史を様々な観点から振り返り、人間が人間としてお互いの存在を尊重し、真の多文化共生社会を作り上げていくために、どう考え、どう生きるかを共に学ぶ場といたく、この連続講座を開催します。

会場参加のほか、オンライン配信でもご受講いただけます。5回通しでも、ご関心のある回を選んでのご受講も可能です。この機会に是非、ご参加ください。



アイヌ語祈祷書
(J・バチラー訳)

- ◎講義1 5月18日(土) 午後5時～6時30分 ※YouTubeLive限定配信
「日本聖公会北海道教区のアイヌ宣教人物史」
講師 広谷和文さん(日本聖公会北海道教区司祭)
会場 日本聖公会札幌キリスト教会(札幌市北区北8条西6丁目)
- ◎講義2 6月7日(金) 午後6時30分～8時 ※ZOOMウェビナー配信
「先住民族とキリスト教宣教 学術研究を参考に現代の視点から」
講師 加藤博文さん(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授)
会場 北海道大学 学術交流会館 小講堂(札幌市北区北8条西5丁目)
- ◎講義3 7月23日(火) 午後6時30分～8時 ※ZOOMウェビナー配信
「アイヌ民族の生活と宗教 アイヌ民族が大切にしてきたこと」
講師 北原モコットウナシさん(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授)
会場 北海道大学 学術交流会館 第一会議室
- ◎講義4 9月9日(月) 午後6時30分～8時 ※ZOOMウェビナー配信
「アイヌ民族とキリスト教伝道の歴史」
講師 小川正人さん(北海道博物館学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長)
会場 北海道大学 学術交流会館 講堂
- ◎講義5 10月11日(金) 午後6時30分～8時 ※ZOOMウェビナー配信
「和人(和民族)とアイヌ民族 どう向き合えばよいか(その1)」
講師 北原モコットウナシさん(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授)
辺泥(ぺて)敏弘さん(Peteトンコリ工房、樺太アイヌの伝統弦楽器「トンコリ」作家・演奏家)
会場 北海道大学 学術交流会館 小講堂

【ご注意】この講座はオンライン配信の実施、及び再配信を予定しています。参加者の顔や質問の声などが映像や音声により配信される可能性があります。お申込みに際して、予めご了承ください。

☆申込方法:以下のグーグルフォームからお申込みください。→

<https://forms.gle/QKTVr9MxyXP7ZGZr9>

☆お問合せはメールで→ ainu.christianity@gmail.com



主催:日本聖公会北海道教区、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター

日本聖公会
北海道教区



歩き続けよ、
福音の道を
NSKK - HOKKAIDO
since 1874



Center for Ainu and Indigenous Studies
Hokkaido University
北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
ainu ŧetawanoankur kanpinuyey cise

【講師プロフィール】

広谷和文さん 日本聖公会北海道教区司祭

1950年網走市生まれ。京都にルーツのある和人。1964年室蘭聖マタイ教会にて受洗。1978年司祭に接手され、北海道教区内の諸教会を牧会、他に保育園園長・聖公会神学院校長などを歴任。現在旭川市に住む。著書『アッパのふところ』（聖公会出版）、日本聖公会北海道教区宣教活動推進部主催の「人権について考え祈る集い」での講演をまとめた『アイヌモシリに生きる』などがある。

加藤博文さん 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授

北海道生まれの和人。北海道大学国際連携研究教育局 先住民・文化的多様性研究グローバルステーションステーション長。専門は先住民考古学、先住民文化遺産、シベリア人類史。著書『イチからわかるアイヌ先住権』（かりん舎）、『先住民族の遺骨返還』（同センター先住民考古学研究室）、『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』（山川出版社）などがある。

北原モコットウナシさん 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター教授

東京都生まれのアイヌ民族。アイヌ文化を学ぶため、大学進学のため札幌へ。専門はアイヌ民族の宗教、アイヌ語、口承文芸とジェンダーの視点にたったそれらの分析。著書『アイヌの祭具 イナウの研究』（北海道大学出版会）、『アイヌもやもや』（303BOOKS）、『ミンタラ1 アイヌ民族 27の昔話』（北海道新聞社）などがある。

小川正人さん 北海道博物館学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長

京都府出身、いわゆるルーツは滋賀県出身の父と京都府出身の母、遡ると印鑑製造と料理旅館経営と聞いている。近代のアイヌ民族の教育史を勉強しており、職場では近現代のアイヌ史の基礎的資料の調査・収集・整理を主な仕事にしている。著書『近代アイヌ教育制度史研究』（北海道大学出版会）、『アイヌ民族 近代の記録』（草風館）などがある。

辺泥敏弘さん Peteトンコリ工房、樺太アイヌの伝統弦楽器「トンコリ」作家・演奏家

東京都出身。釧路のアイヌをルーツに持つ。2016年に阿寒湖畔へ移住。樺太アイヌの伝統的な弦楽器「トンコリ」を製作する傍ら、Pete名義で演奏活動を行う。阿寒湖に暮らす小・中学生とバンドを結成し、アイヌ語のオリジナル曲を複数制作したことも。2022年6月には自身の工房「Peteトンコリ工房」を始める。

【会場案内】

